

## 草原利用・環境教育等の推進に関する基本的考え方（案）

### 「草原利用・環境教育等」とは

- ・ ここでいう「草原利用・環境教育等」とは、
  - \* 草原という場や、場合によっては草原再生・維持のための活動そのものを利用することにより、
  - \* 草原という自然生態系やそれを維持するしくみ（農業を始めとする人のかかわり）、それに伴って形づくられてきた生活文化、さらにいったん損なわれた草原を再生させることのむずかしさ、
  - \* を理解するための環境教育や自然体験、エコツアー、さらにそれらを進めるための情報発信などを行うことを指すものとする。

### 草原再生を進める上での「草原利用・環境教育等」の位置づけ

- ・ 草原再生は地域の農業・畜産業の力によるところが大きいですが、同時に多様な人々のかかわりも必要である。このため「草原利用・環境教育等」を通じて、  
都市住民を始め維持管理に直接従事する農業者以外の人々に対し、草原や阿蘇の農業・畜産業への理解を促進し、それによって草原保全・再生を進めることへの合意を得るとともに、保全・再生への参加や協力など積極的な関与を引き出す。  
維持管理に従事する地域の人々に対し、草原の価値やすばらしさへの再認識を促し、それによって草原保全・再生に取り組むことへの合意を得るとともに、維持管理に従事することへの自信や誇り、維持管理活動の継続への意識を高揚させる。

### 「草原利用・環境教育等」によってもたらされる効果

- ・ 草原の保全・再生へ向けての国民的合意が形づくられる
- ・ 「草原再生」そのものが、自然の複雑さ・奥深さや人のかかわりのだいじさなどを理解する環境教育の場となる
- ・ 地域イメージの向上をもたらし、あか牛肉販売の拡大を始め、地域産業の活性化にもつながる
- ・ 幅広い人々が阿蘇にやって来ることによって、消費活動が誘発され地域経済が活性化する



### 「草原利用・環境教育等」を進めるにあたっての考え方

上記のような位置づけの下で、より大きな効果を生み出すために、かかわるすべての人々の協力により、以下のような進め方が必要と考えられる。

<前提として>

- ・ 幅広い人々の草原への関心を喚起し理解を求める
- ・ 関係者（地権者、産業振興関係者など）の了解・合意の下で進める
- ・ さまざまな実施主体による多方面からの取り組みにより実践していく

<進め方に関して>

- ・ 草原生態系と維持のしくみを、歴史を含めて総合的に理解できるようにする
- ・ 地域環境への負荷をできるだけ少なくし、持続可能な利用を進める
- ・ 地域の人々や1次産業が積極的にかかわる（地産地消、案内人など）
- ・ 牧野組合どうしの連携や地域内の産業間のつながりを深めるきっかけとなるようにする
- ・ 利用者に草原保全・再生への参加を促し、幅広い支援・協力を求める
- ・ これらの組み合わせにより、阿蘇独自の環境教育等の方法を創り出す

<必要な仕組みや拠点づくり等に関して>

- ・ 草原再生への参加・協力の仕組みをつくり広める（ボランティアによる支援、協力金、産品購入など）
- ・ 拠点整備等を通じて、学びの機会の充実や情報発信機能の強化を進める（プログラム、案内人システム、情報発信拠点、施設整備やネットワーク化など）

「草原利用・環境教育等」の具体例

種別	実施主体	事業・活動の内容
地元の人や自然を主人公とする新タイプのツーリズム	阿蘇地域振興デザインセンター	地元の人々と交流しながら阿蘇の自然や歴史文化にふれてもらう「阿蘇カルデラツーリズム」を掲げ、ゆっくり歩く・自転車で走る「スローな阿蘇づくり」などとセットでモデルツアーを実施。「自然案内人」の体制づくりも試行。
修学旅行生の農家民宿、農業体験	阿蘇グリーンストック財団	2000人に及ぶ修学旅行生を受け入れ、農家に宿泊し、牛の飼育、田植えなどを体験するファームステイを実施。
牧野開放による自然体験・交流	木落牧野組合	野焼き支援ボランティアとの交流として牧野を開放し、ワラビ採りなどを実施。
草原利用に関わる生活文化の体験	阿蘇地区パークボランティアの会	古くから草原と集落を結び牛と人が行き来した外輪壁の「草の道」を歩き、自然解説と併せて地域のいとなみへの理解を深める催しを実施。
地域の自然・食・文化情報の発信	阿蘇広域観光と地域づくり連絡協議会	自治体の枠にとらわれず、地産地消とツーリズムをテーマに阿蘇の魅力をPRするサイト「阿蘇ファン」開設運営。

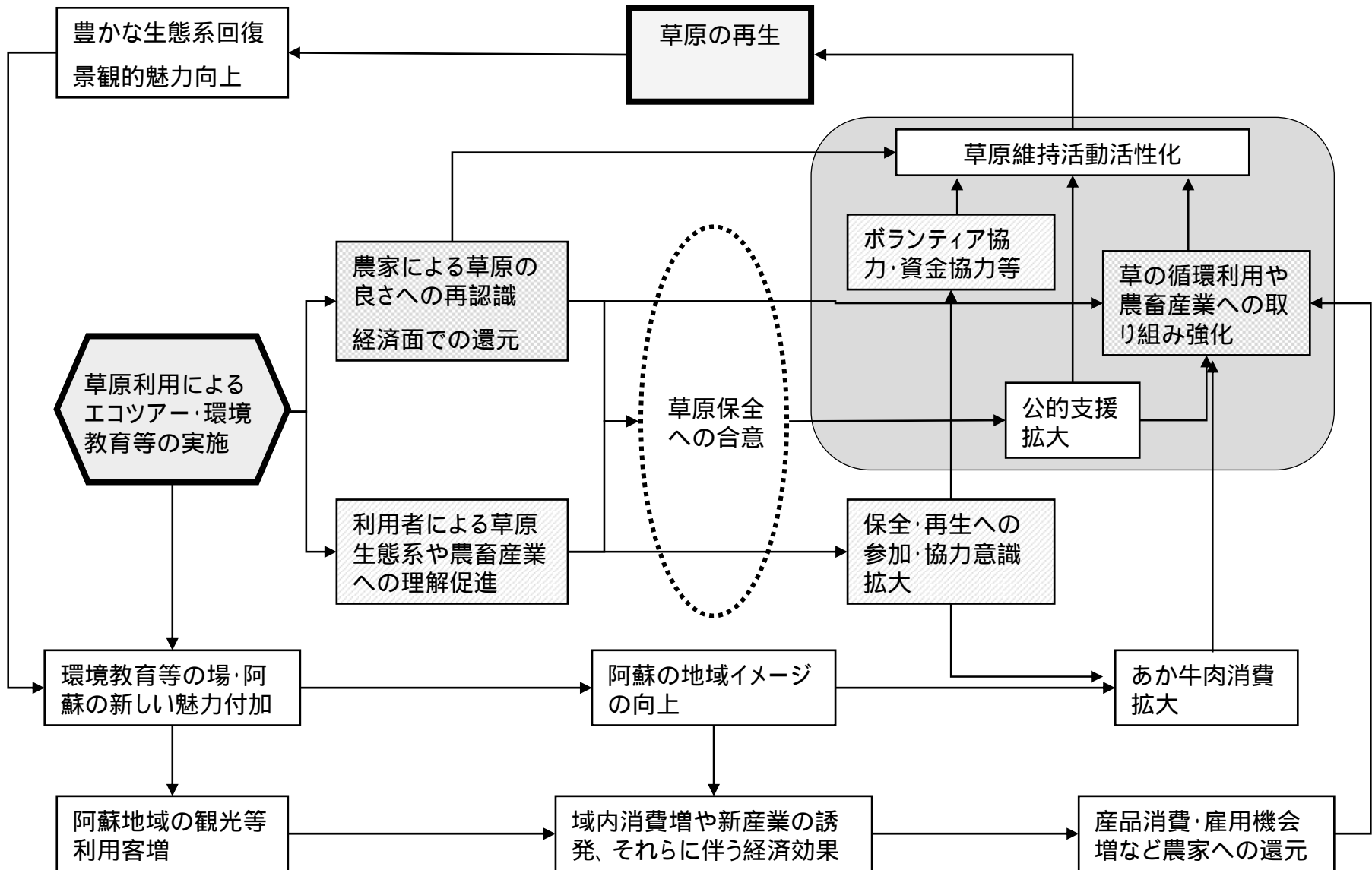
添付資料

【参考1】阿蘇地域における関連事業・活動等の状況

【参考2】草原に関する観光客と牧野組合員へのアンケート調査結果

【参考3】体験型ツアーとしての草原利用の仕組みづくり検討例

# 草原利用によるエコツアー・環境教育等がもたらすもの



## 【参考1】阿蘇地域における関連事業・活動等の状況

	分類	活動内容	関係機関・団体	実施時期	
1	自然体験 (主に地域外 住民対象)	阿蘇郡内での水に関するフィールドワーク。	NPO阿蘇環境計画	2003	
2		野焼き支援ボランティアとの交流としてワラビ採りなどを実施。	木落牧野組合	2002	
3		防火帯づくりと観光振興を目的に、野焼きに参加したボランティアに、南小国の瀬の本高原で乗馬を楽しんでもらう。	阿蘇道産子クラブ	2001～	
4		古御池火口群トレッキング、産山牧場体験バスツアーなど、地元の人々と交流しながら阿蘇の自然や歴史文化にふれてもらう「阿蘇くじゅう国立公園 阿蘇カルデラツーリズム」を掲げ、ゆっくり歩く・自転車で走る「スローな阿蘇づくり」などとセットでモデルツアーを実施。	(財)阿蘇地域振興デザインセンター	2002～	
5		国立阿蘇青年の家で大阿蘇だけでキャンプを開催。	NPO法人コミネット協会	2003	
6		波野村(やすらぎ交流館など)で波野アドベンチャーキャンプを開催。	なみの高原やすらぎ交流館	2003	
7		「阿蘇くじゅうエコツアー」__世界一のカルデラ火山とうっそうとした森を体感できるエコツアー(5月～6月、9月～11月)	日本旅行		
8		「2002大人の自然学校 秋のエコツアー「阿蘇カルデラ トレッキング・キャンプ」__専門ガイドが案内するトレッキング・山登り・自然観察・星空観察・野外炊飯他。	九州山の自然学校「おぐに自然学校」事務局	2002	
9		「世界の阿蘇を訪ねるエコツアー」他	国際環境都市会議くまもと2002「市民環境会議」実行委員会	2002	
10		子供たちを対象とした、波野村遊雀「もくもくヴィレッジそらのいえ」での高原のトレッキング、ツリーハウスづくり、国立阿蘇青年の家(阿蘇郡一の宮町)での草どまりづくり、星空観察会、登山など。定員は20～50名程度。	野外教育研究所IOE	2003	
11	農業・生活文化体験 (主に地域外 住民対象)	体験型農家民泊	農家れすとらん 田子山		
12		大量の修学旅行生を受け入れ、農家に宿泊し、牛の飼育、田植えなどを体験するファームステイを実施。1泊はホテルに宿泊、農家民宿はグリーンストックが仲介。	阿蘇グリーンストック財団など	1999～	
13		牛舎のベッドメイク、牛のブラッシング・シャンプー・草刈り・エサやり、昼食(マザーズキッチン)ちしほり体験、ウィンナーづくり体験。	らくのうマザーズ阿蘇ミルク牧場	2003	
14		百姓村では就農前の研修制度として、1年間を目途とした、尋常農業小学校本科生コース(研修生制度)を開講。阿蘇に住み込み農業を学ぶ。	阿蘇百姓村	通年	
15		「阿蘇そばフェスティバル」__そばの刈り取りと石臼挽きが一緒にできる体験(要予約、先着50名)やそば切り大会、そばクイズなど。	久木野村の「久木野新そばまつり」、阿蘇そばの里づくり推進協議会	2002	
16		冬の行事として「うさぎ追い」を実施。	小国九州ツーリズム大学	毎年冬	
17		「環境ボランティア育成講座」__阿蘇の環境のシンボルである草原を維持するための野焼き等のボランティア活動をととして、地域の環境保全に資する人材の育成を図る。	国立阿蘇青年の家	2004	
18		体験を通じた地域資源の再認識 (主に地域住民対象)	阿蘇の良さに気づき阿蘇の地域づくりを担う人達の人材育成の場、あるいは阿蘇における地域情報の共有の場として「阿蘇人塾(あそびとじゅく)」を開設。	(財)阿蘇地域振興デザインセンター	
19		「谷人ツーリズム」として、毎月1回「阿蘇をさぐる」と題した登山、歴史や自然体験などのフィールドワーク会と、赤牛の世話、花卉、タバコ栽培の実践、また阿蘇の食材を使った農産物加工などのワークステイを開催。	阿蘇たにびと博物館	2003	
20		独自の運営によって学びネット各施設を利用し、より楽しいイベントやワークショップ・自然、歴史、文化の探検隊などを企画。	阿蘇を学ぶ市民の会		
21	「阿蘇の自然に親しむ集い」__阿蘇北外輪の馬場川支流探検と周辺の野草観察や高森峠、清栄山を訪ねながら秋の野草観察など。	阿蘇地区パークボランティアの会 後援:環境省九州地区自然保護事務所	2003		

	分類	活動内容	関係機関・団体	実施時期
22		「みんなで作ろう!屋根のない博物館 ASO田園空間」__ ASO田園空間博物館研究会 地域委員、区長、町など約15名が毎月1回打ち合わせを行いながら、博物館全体の活動の調整・連絡会議および地域資源発掘を実施。 史跡散策ツアー(毎年2回) 町民40人が参加し、地域資源(参勤交代道、銘木等)を散策。 河川道路美化コンクール(毎年1回) 町内の河川及び道路沿線で開催。20団体が参加。	阿蘇町役場建設課	
23		阿蘇で遊んで学ぶ「阿蘇大学」が南小国で開校。参加者30人が筑後川の源流を探検、草原の役割について学ぶ。	阿蘇グリーンストック財団	1998
24		阿蘇の成り立ち、草原でのパラグライダー、溶岩洞窟や火口探検、草泊り(草のテント)づくり、など計4回開催。	子どもパークレンジャー九州地区事務局	
25	野焼き・輪地切り支援	草原懇話会「野焼き体験交流会」__環境庁の事務所が、草原への関心を高め長期的な保全対策を検討する草原懇話会の行事として、阿蘇町赤水原野で実施。有識者、一般参加者、牧野組合員など計270人が参加。	環境庁九州地区国立公園・野生生物事務所	1997
26		野焼きボランティアを募集、研修修了者を1999年3月から野焼き支援に派遣している。参加者は年々増え、2003年春は延べ446名のボランティアが6町村17ヵ所の野焼きに参加した。	阿蘇グリーンストック財団	1999～
27		野焼きボランティアによる輪地切り支援活動を開始。	阿蘇グリーンストック財団	2000～
28	森林保全活動	「サントリー「天然水の森」計画」__2003年夏に竣工予定の九州熊本工場の水源地である阿蘇外輪山の国有林約100haをサントリー「天然水の森」と名付けて、水源かん養機能の高い森林として整備する水資源保全活動。	サントリー	2003～
29	清掃活動等	河川の子清掃活動を実施。	NPO阿蘇環境計画	2003
30		協議会とボランティアによる河川の子清掃や、小学生と敬老会との「水生生物観察会」を通じた環境交流会、阿蘇環境シンポジウムを開催するなど環境保全活動に積極的に取り組むほか、心無い人々の廃棄物不法投棄による環境汚染が問題となりつつあるため、防止対策を行う。	阿蘇地域内70機関・団体で構成する「不法投棄対策連絡協議会」、熊本県阿蘇地域振興局 衛生環境課(熊本県阿蘇保健所内)	
31		「阿蘇の草千里で美化清掃運動」__「全国自然公園クリーンデー」と題して、全国の自然公園(国立公園、国定公園、都道府県立自然公園)で、毎年8月の第一日曜日に開催。	環境省九州地区自然保護事務所	2003
32		オムロンデーにサイト周辺地域(仙酔峡)のごみ収集を開催。26名が参加。	オムロン阿蘇(株) 品質・環境部	
33	講習会等	「ジョイントカレッジ in ASO」__学生と社会教育指導者が共に学ぶ環境教育	国立阿蘇青年の家	2003
34		「プロジェクトワイルド(PW)講習会」__18歳以上を対象に、なみの高原やすらぎ交流館にて12,000円(テキスト、講習費、宿泊費、食費4食)でプロジェクトワイルドの講習会を開催	野外教育研究所IOE	2003
35	普及啓発・情報発信	ホームページによる情報発信等。	NPO阿蘇環境計画	2003
36		自治体の枠にとらわれず、地産地消とツーリズムをテーマに阿蘇の魅力を紹介するサイト「阿蘇ファン」開設運営。	阿蘇広域観光と地域づくり連絡協議会	2003
37		阿蘇ライブカメラの設置運営。	九州産業交通(株)阿蘇山観光事業所/RKK熊本放送	
38		あか牛やあか牛文化に関する情報を動画をまじえながら紹介するサイト「あか牛TV」を開設。	熊本県畜産農業協同組合連合会	
39		熊本県阿蘇4町村(一の宮町・阿蘇町・産山村・波野村)を紹介し、阿蘇の大自然に触れてみたくなった方向けに、インターネットによる宿泊予約、阿蘇の大自然が育んだ農産物を中心とした商品購入が可能なショッピングモールを兼ね備えた「サイバーモール阿蘇」を開設運営。	財団法人 阿蘇町地域振興公社 (阿蘇テレワークセンター)	

(資料:新聞記事、インターネット検索ほかによる)

## 草原景観に関するアンケート調査結果

草原保全に向けた都市住民と地域住民の合意形成を進めるにあたって、それぞれの意向を調べてみました。都市住民を代表して阿蘇を訪れる観光客を、地域住民を代表して、草原の入会権を持ち利用・管理する牧野組合員を、それぞれ対象としたアンケート調査を行いました。その結果、双方の認識の違いや共通点などがわかってきました。

### ☆観光客にとって阿蘇の魅力の中心は草原☆

観光客アンケート調査結果より

・阿蘇でいいと感じた風景は、「草原が広がる風景」が77%と群を抜き、次いで「山の連なりやカルデラの風景」「牛馬のいる放牧風景」とつづき、牛馬放牧の場としての草原景観が阿蘇を代表する風景となっています。

◇阿蘇でいいと感じた風景（3項目以内選択）

n=228



◇草原の印象として、「雄大」「広々として伸びやか」とのイメージが強い

◇阿蘇の草原の印象（3項目以内選択）



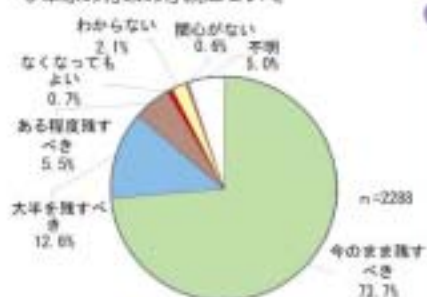
※空白施設のみの設問項目

### ■草原の将来の存続について

観光客

◇草原は残すべきとの意見が大半

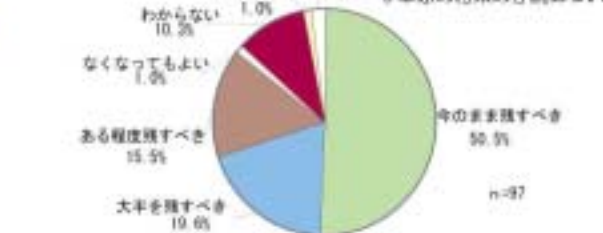
◇草原の将来の存続について



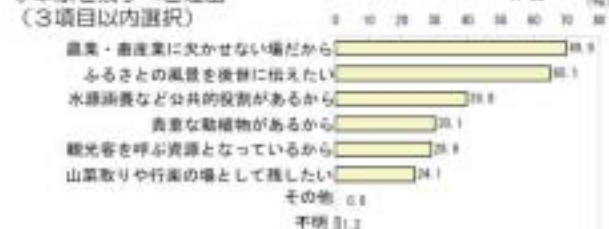
牧野組合員

◇草原を残すべきとの意向は強いが、すべて可能とは考えていない

◇草原の将来の存続について



◇草原を残すべき理由（3項目以内選択）



■ 草原の現状認知について

観光客

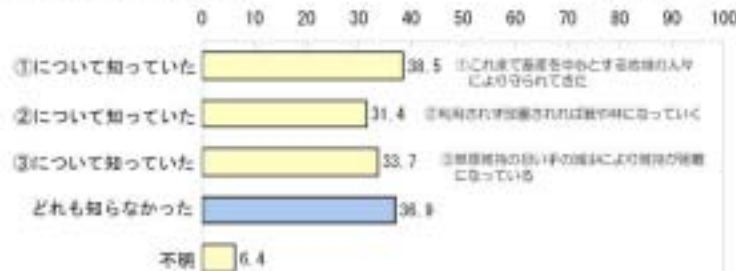
○ 阿蘇の草原の現状を知る人はそれほど多くない

〈設問内容〉

阿蘇の草原は、  
①これまで畜産を中心とする地域の  
人々により守られてきたこと、  
②草原は利用されず放置されれば藪  
や林になっていくこと、  
③農家の減少や畜産業の衰退などに  
より草原維持の担い手が少なくなり  
維持が難しくなっています。  
あなたは①から③のようなことを知  
っていましたか。  
(いくつでも選択)

◇ 草原の管理に関する認識

n=2288 (%)



○ 熊本県内では比較的認識が高まる

◇ 草原の管理に関する認識 (居住地別)

n=2288



■ 草原保全への参加・協力意向

観光客

◇ 草原保全に向けた参加・協力への関心



○ 草原保全のための参加・協力への関心は高い

○ 地元産品購入、協力金等の支払いには6割以上が前向き

◇ 草原保全への参加・協力方法 (宿泊施設)

n=1424



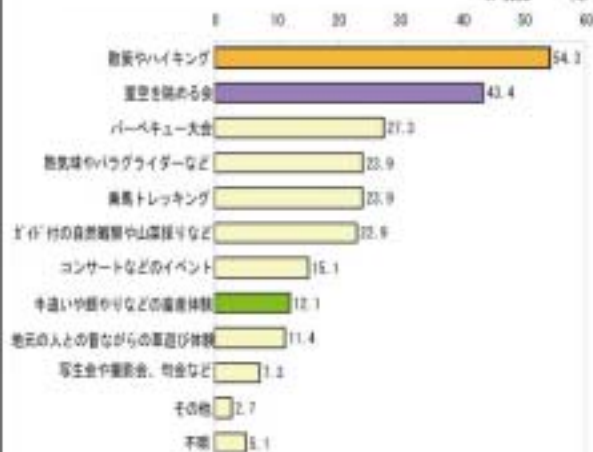
■今後の草原利用について

観光客

○草原内で活動が可能とすれば、「散策・ハイキング」や「星空を眺める会」への希望が多い

(設問内容)  
仮に、草原の中に入って色々な活動ができるとしたら、どのような楽しみ方をしたいとお考えですか。(3つまで選択)

◇草原での活動や楽しみ方(3項目以内選択) n=228 (%)



○立ち入るとすれば、草原での地元の営みが理解されるような活動形態を望む

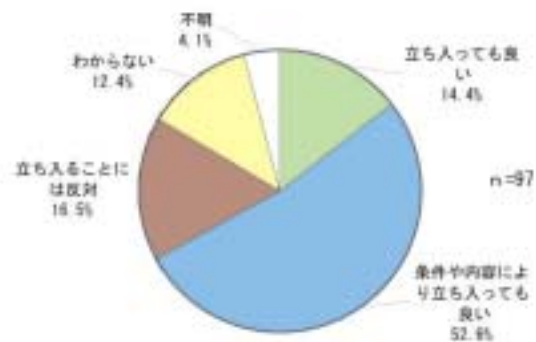
◇草原の望ましい利用形態(3項目以内選択) (%)



牧野組合員

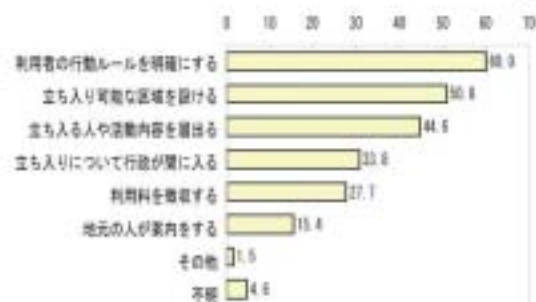
○観光客の草原への立ち入りには賛否両論

◇草原の開放について



○立ち入りは一定のルールのもとで

◇草原に立ち入るための条件(3項目以内選択) n=45 (%)



○一番気がかりなのは自然環境への悪影響

◇開放する場合気がかりなこと(いくつでも選択) n=40 (%)

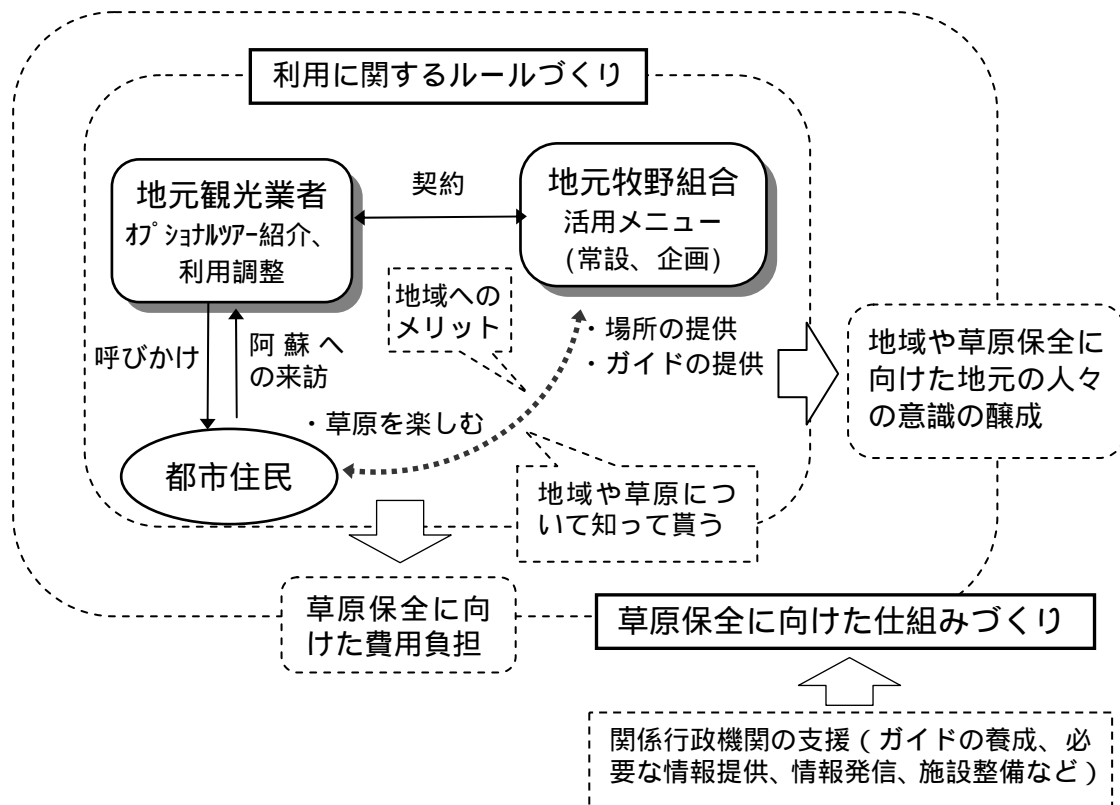




### 【参考3】体験型ツアーとしての草原利用の仕組みづくり検討例

#### 関係者の役割と必要な仕組み

- ・ 地元牧野組合：草原利用のメニューを用意するとともに、立ち入りにあたってガイドを務める。
- ・ 地元観光業者：牧野組合との契約のもと、都市への呼びかけ、宿泊者への草原利用のメニューの紹介、受け入れを行う。利用者の管理、ツアー費用の精算等を受け持つ。



#### ホテルなど観光業者とのタイアップで受け入れる仕組みを作ることを前提とした活用例

- \* 春の湿原ツアー。希少種保護の問題から、モラル面で人選が必要と考えられる。支援ボランティアに対するお礼として行うことも考えられる。
- \* 地元や熊本市内の小学校の遠足・環境学習・総合学習の場としての活用。
- \* 「草の道」を利用して牧場まで歩く。パークボランティアなどのガイドで地域の生業・文化に触れながら石畳の道を歩き草原に至る。
- \* 複数の牧野を利用した草原歩き。複数牧野の協力により草原景観や自然観察を楽しむ草原トレッキングのコースを設定して実施する。
- \* 北外輪から久住の山々を望む。例えば、車で格納庫まで行き周辺で、波打つ草原の広がりや久住連山の景色を堪能し、歩いて帰ってくる。

\* 森林境におけるバードウォッチング、など。

いくつかのコースに分散して楽しんだ人々を、例えば監視小屋前に集め、農産品を持ち寄った市の開催やバーベキューなどにより交流を図ることも考えられる。

#### 牧野に立ち入るために必要な条件設定やルールづくり

- 具体的に立ち入り可能（実施可能）と思われる場所の設定。
- 立ち入りが可能と思われる時期の設定。
- トイレなど立ち入ることにより必要となる施設の設置。
- 入場者のタイプや人数の限定。例えば、小中学生の野外活動や修学旅行など教育的目的のみなど。
- 立ち入りに際して、最低限決めておく必要がある事柄。例えば、ゴミの持ち帰り、動植物の採集禁止、指定場所以外で火は使わない、など